



平成 30 年 8 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 s M e d i o
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岩 本 定 則
 (コード番号：3913 東証マザーズ)
 問 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 北 埜 弘 剛
 (TEL. 03-6262-8660)

平成 30 年 12 月 期 第 2 四 半 期 連 結 累 計 期 間 の 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異 に 関 す る お 知 ら せ

平成 30 年 2 月 13 日に公表しました平成 30 年 12 月 期 第 2 四 半 期 連 結 累 計 期 間 の 業 績 予 想 と 本 日 公 表 の 実 績 に 差 異 が 生 じ ま し た の で、下 記 の 通 り お 知 ら せ い た し ま す。

記

1. 平成 30 年 12 月 期 第 2 四 半 期 連 結 累 計 期 間 の 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異

(単位：百万円)

	連 結 売 上 高	連 結 営 業 利 益	連 結 経 常 利 益	親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 利 益	1 株 当 た り 四 半 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	611	9	6	2	1 円 49 銭
実 績 値 (B)	534	29	29	12	6 円 42 銭
増 減 額 (B)-(A)	△76	19	22	9	—
増 減 率 (%)	△12.6	201.2	373.6	330.6	—
(ご 参 考) 前 期 実 績 (平 成 29 年 12 月 期 第 2 四 半 期)	585	42	42	9	4 円 69 銭

2. 差 異 の 理 由

(連 結 売 上 高)

当 社 の 連 結 売 上 高 は、ロ イ ヤ リ テ ィ 収 入 が 7 割 弱、開 発 収 入 が 3 割 弱、残 り が 保 守 ・ サ ポ ー ト 収 入 で 構 成 さ れ て い ま す。こ の う ち、ロ イ ヤ リ テ ィ 収 入 と 開 発 収 入 が 計 画 を 下 回 っ た こ と で、連 結 売 上 高 は、計 画 を 約 76 百 万 円 下 回 り ま し た。

◆ 開 発 収 入

計 画 で 見 込 ん で い た 新 規 開 発 案 件 の 失 注 (約 19 百 万 円) が あ っ た こ と に 加 え、納 品 ・ 検 収 が

第3四半期以降に後ろ倒しになった開発案件（約35百万円）があり、開発収入が計画より約54百万円下回りました。

◆ロイヤリティ収入

当社のソフトウェア搭載のPC等の出荷台数が想定を下回ったことに加え、画像解析AIエンジンの採用に向けた実証実験の期間が想定より長くなったため、画像解析AIエンジンのソリューション販売が遅れた影響（約14百万円）があり、ロイヤリティ収入が計画より約29百万円下回りました。

（連結営業利益・連結経常利益）

売上総利益率は、売上原価率が高い開発収入の割合が低下したことで、計画比で3%程度良化しました。

当第2四半期連結会計期間末において、仕掛在庫（仕掛ソフトウェア）は、納品・検収が後ろ倒しになった開発収入の影響に加え、当第2四半期連結累計期間に完了した開発案件の開発工数を効果的に消化できたこともあり、計画を上回りました。

売上総利益は、連結売上高の下振れの影響が大きく、計画を約20百万円下回る水準となりました。

①開発人員の新規採用が、一部、第3四半期にずれ込んだことなどによる人件費の増加幅縮小や②節減に努めた旅費交通費などの経費が計画を下回った結果、連結営業利益および連結経常利益は、計画を上回り、ともに29百万円となりました。

（親会社株主に帰属する四半期純利益）

上記を受け、親会社株主に帰属する四半期純利益は、計画より約9百万円上回り、12百万円となりました。

以 上